

心肺蘇生を望まない心肺停止傷病者への対応について



病気や老衰などで人生の最終段階を過ごしている人が、かかりつけ医や家族らと話し合って「心肺蘇生を望まない」こと決め、自宅や高齢者施設等で看取りのケアを受けていたとしても、急変時に119番通報した場合、救急隊は本人意思に反しても、救命処置を行いながら医療機関に搬送しなければならない現状があります。救急隊の役割は、生死の瀬戸際にある人の命をつなぎとめながら、一刻も早く医療機関に運ぶことであるため、駆け付けた先で心肺蘇生拒否の意思を示され困惑するということが多く起こっていました。

そこで、北河内地域救急メディカルコントロール協議会〔※1〕において、本人意思を尊重した救急活動ができるよう、人生の最終段階にあり心肺蘇生を望まない心肺停止傷病者への救急隊の標準的活動ガイドラインが策定されました。まずは枚方市・寝屋川市を対象に、2024年7月1日より運用され、検証の後、ガイドラインの改訂や広域化に努めていくとのことです。



〔※1〕北河内地域における救急業務の実施に必要な各種プロトコルなどを策定する協議会

2019年の消防組合議会での質問▶



奥野の**考え**

- どのような最期を迎えたいかについて事前に考え決めることは、どう生きるかを考えることでもあります。病院で死を迎えたくないという家族が望む形での看取りに苦勞をし、いろいろと考えることもあったことから、5年前、人生の最終段階の過ごし方を選択できる環境の整備や救急現場での対応について、枚方寝屋川消防組合議会でも質問し、本人意思が尊重される取り組みの検討を要望しました。
- 生活の場である自宅や施設で最期の時を過ごしたいと願っても、救急車を要請すると救命措置が行われ、病院に運ばると望まない治療を受ける可能性があります。救急現場での取り組みを生かすためにも、人生会議（ACP）や適切な救急要請についての啓発が求められます。

もっとよい枚方をつくるための意見交換の場

みか's cafeへようこそ！

みか's caféは、多様な皆さんがゆるやかに集まり、テーマを決めて話し合う場です。住みたい、住み続けたいまちをともにつくる、もっとよい枚方をつくるための意見交換の場として、2023年5月から、総合文化芸術センターのマルチスペースで開催しています。

異なる価値観との出会いやそれぞれの考え方のちがひも楽しみながら、「対話」を重ねることで生まれる気付きやひらめき、「はて？」や「なるほど」を共有できればいいと考えています。参加者の皆さんの次のステップにつながる学びもあればと思います。私自身も「対話」を通して学び、さらなる取り組みにつなげていきたいと思っています。ぜひ、みか's caféに参加してください。一緒に「対話」を楽しみましょう！



<2023年（8回）>

- 5月7日 学校のこと
- 6月11日 学校のこと_パートⅡ
- 7月9日 孤独・孤立
- 8月20日 相談すること、相談されること
- 9月18日 支援について
- 10月22日 家族について
- 11月12日 行きたい学校、行きたくない学校
- 12月3日 地域・コミュニティについて

<2024年（これまで7回）>

- 1月21日 安全・安心と信頼
- 2月18日 異次元の少子化対策って!?
- 3月31日 政治に対する「不信」
- 4月21日 新庁舎建設、枚方市駅周辺再整備などの大きな課題への向き合いかた
- 5月19日 「変える、止める」ということについて
- 6月30日 近い将来に直面しそうで心配な困りごと
- 7月21日 「健康」に関するさまざまな不安
～どう考え、どんな対応が必要なのか

